



不祥事・疑惑次々と発覚！

1. 文科省の組織的な違法天下り
 2. 南スーダンの「戦闘」ごまかし
 3. 国有地9割引きの払い下げ
- 国民の疑念にしっかり答えるべき

天下り官僚が莫大な税金を無駄にしている。
天下り天国復活。

文部科学省の違法な組織的天下りが続々と明らかになっています。ある天下りは「月2回で1千万円」の報酬を得ていました。企業や団体はなぜこんな破格な待遇で天下りを受け入れるのでしょうか。官庁がOBを受け入れてもらった企業や団体に便宜を図るからです。莫大な補助金や助成金、規制の取り締まりの見逃ごしなど様々な利権につながります。天下りの存在が行財政改革や政策転換を阻んでいます。自民党政権に戻って文科省に限らず天下りが復活していると言われていました。

「戦闘」を「衝突」と言い換え。
言葉遊びで現実を隠蔽。

南スーダンでPKO活動に参加している自衛隊からの大規模な戦闘があったという日報。当初、「日報を破棄した」としていたが、それが発覚すると、稲田防衛相は「戦闘行為はなかった」と繰り返しました。その後、戦闘行為を認めざるを得なくなっからは、憲法9条に抵触しないために、「戦闘を衝突に置き換えた」と発言。戦闘という言葉を使わなければ、自衛隊を派遣できると考えているのでしょうか。本当に気の毒なのは、現地で危険にさらされ、苦闘する自衛隊員です。

安倍昭恵夫人が名誉校長を務める学校法人が1割の価格で国有地払い下げ

安倍総理の夫人昭恵氏が名誉校長を務める学校法人が国有地を10分の1の価格で払い下げを受けました。9億5600万円を1億3400万円、差額の8億1900万円は埋却されていた一般ゴミの撤去費用だといいます。しかし、関係の役所はまともな調査もしていないし、価格の根拠も説明していません。国に8億もの損失を与えたこととなります。国有地の売買は公表される原則ですが、財務局はこの取引を隠蔽していました。

この学校法人は幼児に教育勅語を暗唱させ、愛国心を育てる方針と言います。外国人への蔑視も問題視されています。総理夫人が名誉校長を務めることでこの学校に特別なお墨付きを与えたことは事実です。総理の責任がないと言えるのでしょうか。

安倍・トランプ会談。本当に喜んでいいのか。

元衆議院議員 梶原やすひろ

トランプ大統領と組むリスク

トランプ大統領との会談を終えた安倍総理の内閣支持率が58%（NHK）に上昇しました。マスコミの過熱報道もあり、日本中がトランプ大統領の発言や歓待ぶりに安どしたという感じです。しかし、本当に喜んでいいのでしょうか。これから日本がどこへ向かうのか、誰もわかっていません。

安倍総理が会談したのは、これまでのアメリカの政権ではなく、日本以上に同盟関係の強いイギリスやカナダでさえ非難するトランプ政権です。その非難は自由や民主主義に基づく、極めて正当なものです。安倍総理は歓待を受けて大層ご満悦の様子でしたが、世界各国では日本が横暴な権力者にへつらう、理念も正義もない国と映ったのではないのでしょうか。過剰な歓待ぶりはトランプ大統領が独善的な言動のために如何に孤立しているのか、物語っているに過ぎません。

安保法制成立は、最悪のタイミング

長時間にわたる対話で何が話し合われたのでしょうか。安倍総理は「他に選択肢はない。トランプ大統領と信頼関係を築く」としました。関係強化のためはかなり踏み込んだ話をしたと思います。安倍総理が再三口にした「尖閣」と「自動車」を守るために、国家と自立を売ることにならないのでしょうか。

安倍総理は安全保障で今後、より大きな責任と役割を果たすと発言しています。昨年成立した安保法制のもとでアメリカ軍とともにイギリスやフランス以上に海外の戦争に加担する道を決断したのではないのでしょうか。

何でも言うことを聞く日本

安倍総理がどんなに恭順の意を示したとしても貿易や為替問題で日本が特別扱いされることはないでしょう。トランプ大統領は安倍

総理の訪米に合わせて一つの中国支持に急転換し、中国の顔を立てています。中国と日本を天秤にかける戦略は明らかです。トランプ大統領はビジネスマンであり、自分の状況次第で態度は豹変し、経済問題で麻生副総理はかなり厳しい交渉を強いられるでしょう。安部総理の恭順ぶりは日本の足元を見られたただけだと思います。

年金基金でアメリカの雇用創出？

トランプ大統領は新幹線の技術力の高さを語りました。新聞報道の通り年金基金の50兆もの資金を10年にわたって投資することが話し合われています。成長が期待され、資金の乏しいアセアンに新幹線投資するならいざ知らず、世界一の経済大国になぜ莫大な資金を提供するのでしょうか。しかも国民の老後のための年金基金ではありませんか。もし、1年1兆円でも人口減少が進む地方に投資できたとしたら、どれほどの雇用を創出し、地域が蘇るのか、少子化が改善されるのか。本当に悔しい。ここまでトランプ大統領のご機嫌をとる必要があったのでしょうか。

外交の自立のチャンスを放棄した

戦後アメリカに追随してきた日本にとってトランプ大統領の出現は一つのチャンスではなかったのでしょうか。アメリカの政権と言えども世界が積み上げてきた民主的な理念を破壊する政権に対して従属するのか、理念と正義の道に従い、自立を模索するのか、岐路に立っていたはずですが、安倍総理は何の躊躇もなく、思考停止のまま追従の道を選びました。そういえば、自民党のポスターに「この道しかない」というのがありました。この選択が取り返しのつかない禍根となるのではないかと、日本がまた大きな過ちを繰り返すのではないかと、そんな懸念が頭から離れません。